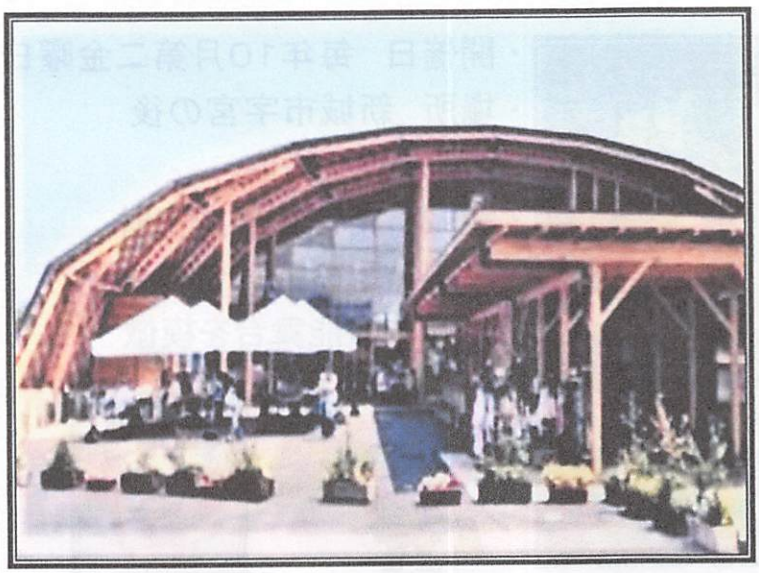
新城へようこそ【道の駅もっくる新城】



- 場所　新城市ハ束穂五反田329－7
- ☎0536－24－3005
- 新東名新城インター入り口
- 東三河の観光ハブステーション
- 武田軍が長篠より設楽原へと進軍を開始する為に11の陣容を整えた場所です

mokkulu shinshiro
もっくる新城

・新東名高速道路の開通に合わせて、開所した新城市の三番目の【道の駅】で新城市の玄関窓口の役割を果たしています。新東名高速新城インターの出入り口の場所に在り、奥三河観光の拠点に成っています。【観光案内所】【新鮮野菜等の売店】【湯谷温泉の湯の足湯】【ドッグラン】などの施設があり、休憩と長時間楽しめるエリアです。
令和3年10月には、【ジエイアール高速バス】も開通し、名古屋圏への直通バス【山の湊号】と共に益々交通の重要な拠点になりました。

令和３年10月28日
祝 ジェイアールバス高速バス路線 新城開通

【名古屋へ山の湊号】

高速乗合バス　毎日運行　予約者優先
新城名古屋藤が丘線

新城市は戦国の歴史と史跡の宝庫

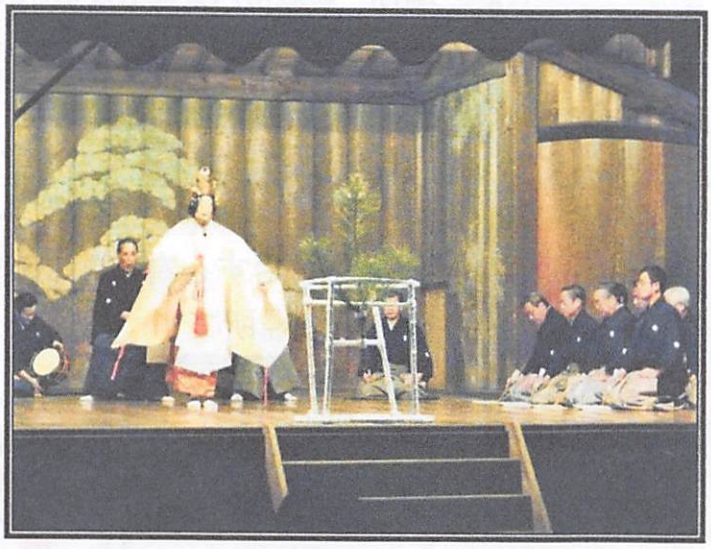
1575年
天正３年旧
５月２１日

【長篠・設楽原の戦い】

その角を曲がると何かがある
ようこそ新城市へ

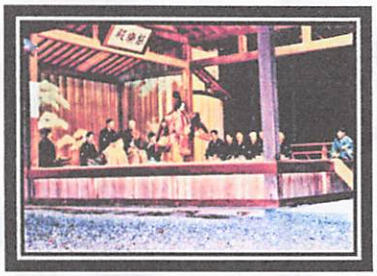
Shinshiro
新城
Shinshiro

新城へようこそ【富永神社祭礼能】



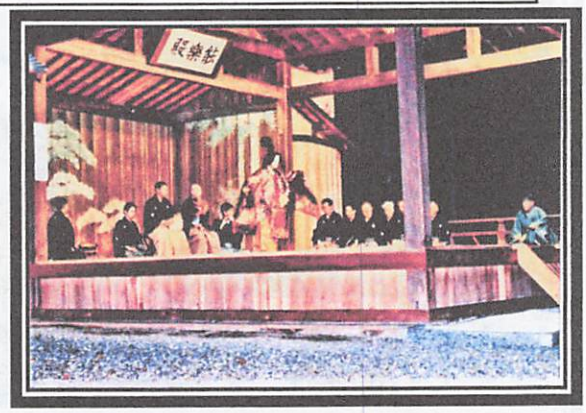
・開催日　毎年10月第二金曜日
・場所　新城市字宮の後
　富永神社境内
・新城市指定無形文化財
・近国無比の能舞台
・江戸城の能舞台を模倣

・この【祭礼能】は、新城富永神社で毎年秋に開催される、富永神社例大祭の初日に奉納される【能】と【狂言】のことを言う。その歴史は古く、当地域での【能】との出会いは、天正4年（1576）の【長篠・設楽原の戦い】で、長篠城主であった奥平信昌は、新たに築いた城（**新城城**）の落成記念として観世与三郎を招き、城中で祝能を催したと伝えられる。その後は、領主らによって能がたびたび興行され、やがて17世紀末には、能を習って役者となる町人が現れるほど盛んになったという。そのような状況下で、元文元年（1736）に富永神社の氏子が、旗元で領主の菅沼定用の家督を祝して【**能**】を社前に奉納したことが、祭礼能の始めとされる。翌年には、【**狂言**】の奉納も始められ、現在のような能楽形式で執り行われることになった。ここでの特色は、土着された喜多流の流れをくむ【能】を特定の氏子が代々世襲しながら、いわゆる素人集団が奉納してきたことにある。それと同時に17・18世紀の能装束を始め、衣装や能・狂言面などの250点を超える貴重な能道具が、今日まで大切に伝え保存されていることも挙げられる。それらの品々は、大名家収蔵品にも引けを取らない品格の高い衣装デザインや品質、当時の新城町民の趣味の高さを伺わせる独自性の高いデザインなど、三河山間地の小都市ともいえる【**新城**】の財力と美意識の高さを見事に物語っています。



新城へようこそ【富永神社祭礼能2】

・起源 「新城」城築城
【 祭 祝 能 】
・天正4年(1574)～現在
・左写真 演目【末 広】
・本町の町衆に由る伝統芸能
・写真 天野雅夫氏と大原正巳氏等の皆さん



町内の町衆が演じる富永神社祭礼能
能舞台も装束も見事な【能の街新城】

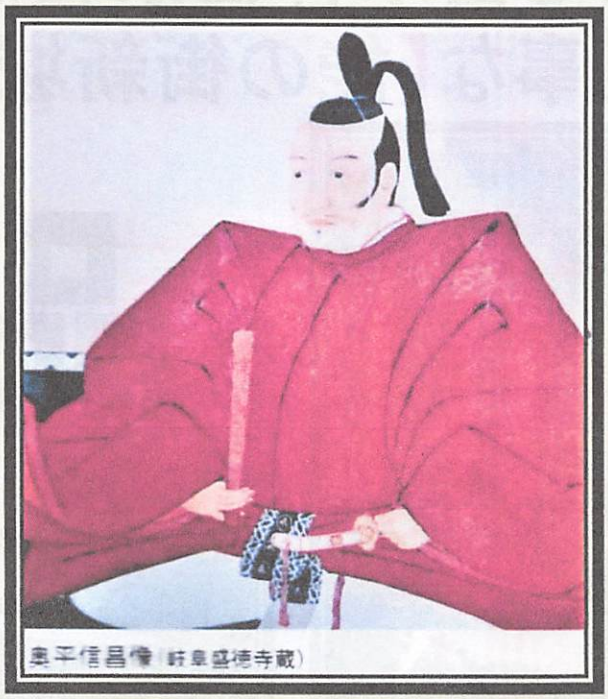
郷土の小道

新城城跡

（新城市字西入船）

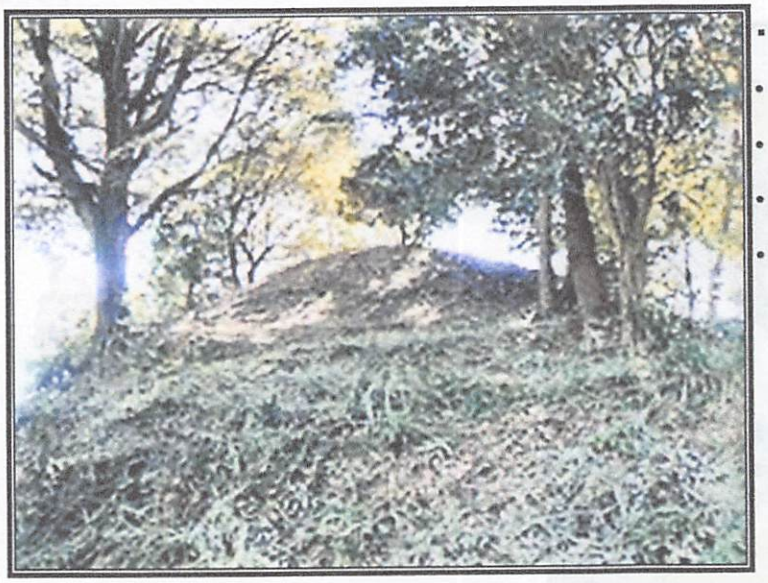
新城城は、長篠・設楽原の戦いで功績のあった奥平信昌が、徳川家康の長女・亀姫をめとり、長篠城から移り住む際に築いた城で、「しんしろ」の由来になったとも伝えられています。

新城小学校のグラウンド南側には、城跡を示す石碑や案内版が建てられており、学校周辺には、的場（弓矢の訓練所）や大手門（城の玄関口）など、城に由来する地名も数多く残されています。


奥平信昌像（新城宝徳寺蔵）

新城城は、明治8年の廃藩置県によりとり壊されました。

新城へようこそ【断上山古墳群】



・場所　新城市竹広字宮川
・家康の本陣の場所
・東郷中学の裏山
・東郷ケッターパーク内
・新城市指定史跡

・新城市は、古くより【穂の国】と呼ばれ、断上山古墳群は豊川上流の平野部にあります。この古墳の目の前の畑が八剱遺跡であるように弥生時代の昔より、多くの人々が暮らしていた事が分かります。東郷中学の裏の丘陵が弾正山で、一帯には10基の古墳群があり【断上山古墳群】と呼んでいる。ここが設楽原の決戦で、徳川家康が本陣を置いた【八剱神社】の場所になります。江戸時代は、弾正山で明治5年に断上。1号墳から8号墳までが後期古墳で、9号・10号墳は数少ない前期古墳の代表的なものです。9号墳は【粕塚】とも呼ばれ、直径17m、高さ3mの円墳で、未盗掘で遠くからでも見ることが出来ます。【家康物見塚】の場所です。10号墳は、全長50m。後円部直径30m、高さ6m、長さ20m、幅14mの前方後円墳です。

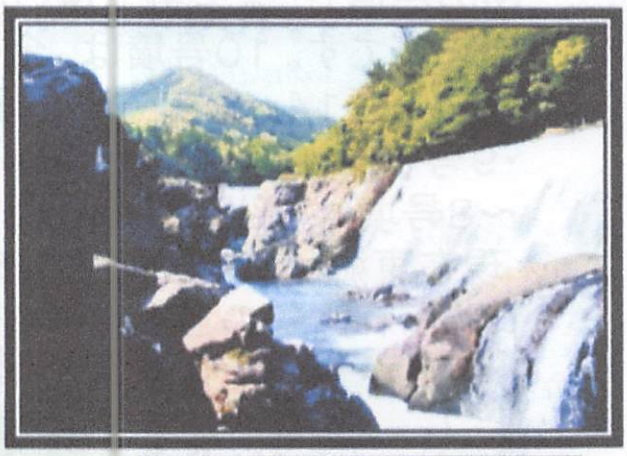
・9号墳と10号墳は、昭和53年10月15日に県指定文化財に、1号墳～8号墳は、昭和33年4月1日に新城市指定史跡になっています。

＊現在東郷ケッターパーク（マウンテンバイク）の公園が、【古墳】の周辺に造られ大勢の自転車愛好家で賑わいを見せています。

Shinshiro 新城へようこそ【殿戦の地：花の木公園】

・場所　新城市出沢橋詰118－1
・三河：新城のナイアガラの滝
・日本三大美堰堤（長篠堰堤）
・日本発の立軸式水車発電所
　現在も稼働中
・民宿・お食事処・釣り堀
・新城総合公園：車で3分
【花の木公園】
☎0536－25－0123

・この花の木公園の場所は、設楽原の決戦後、武田軍が撤退の為に、寒狭川を渡河する殿（しんがり）戦のエリアです。長篠合戦屏風の右上の部分に滝が描かれていますが、まさに屏風の滝がこのエリアです。
近くには、名勝**【鮎滝】**と**【鵜の首】**、**【橋詰桟橋趾】**などの史跡案内石標があります。この地は、寒狭川の中でも最も川幅が狭く、渡河のために桟橋があったと云われています。馬場信房戦死の地を始め、徳川軍の滝川助義と笠井満秀の相打ちの二基の石標【大正3年長篠古戦場顕彰会と、昭和63年の設楽原をまもる会による】が釣り堀の池の横に佇んでいます。　**花の木公園**

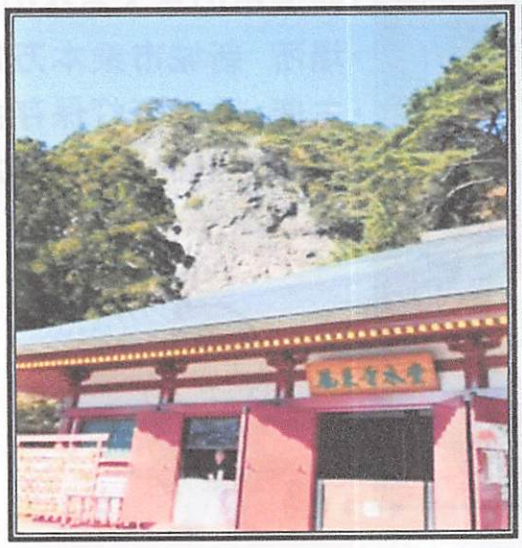


新城総合公園

手前が釣り堀

新城へようこそ【鳳来寺山】

・俳人松尾芭蕉も訪れた鳳来寺山



・場所　新城市門谷
　　字鳳来寺
・石段　1，425段
・芭蕉は2首の俳句詠
・名勝【鏡岩】
・鳳来寺山東照宮
・利修仙人が開山
・寅童子の伝説

・鳳来寺山は、標高695㍍1500万年前の火山の名残で流紋岩などで出来ています。山の中腹にある【鳳来寺】は、今から1300年前に利修と言う仙人によって開山されたと云われています。表参道の石段を登り、仁王門を過ぎた辺りで名木【傘杉】が見られます。推定樹齢800年、木高は60・8㍍にもなり天に向かって伸びる姿はまさに圧巻です。幹の枝が上方で四方に広がり、傘を差した様に見えることから傘杉と呼ばれています。
・俳人松尾芭蕉は、鳳来寺で2首の俳句を詠んでいます。
【　木枯らしに　岩吹きとがる　杉間かな　】
【　夜着ひとつ　祈出して　旅寝かな　】

湯谷温泉にある利修仙人の足湯➡

鳳来寺山の名勝鏡岩の絵

鳳来寺山名勝鏡岩の写真

Shinshiro 新城へようこそ【夏の炎の奇祭乗本万灯】

・新城市の三大お盆の火祀り
・場所　新城市乗本万灯山
・主催　乗本万灯保存会
・県指定無形民俗文化財
・昭和40年指定

・**【乗本万灯】**の起源は、はっきりしませんがおそらく市川の**【鍋づる万灯】**と同じ様にかなり古くより行われていたと思われます。その行事に竹広の**【火おんどり】**と同じく戦国の武将の弔いの想いが加わったと思われます。乗本万灯山の頂上は、【長篠・設楽原の戦い】の鳶ヶ巣砦の戦いがあった場所です。酒井忠次軍と武田軍が壮絶な死闘を演じました。長篠の乗本本久地区では、乗本万灯として、設楽原では、信玄塚の火おんどりとして、戦国人の供養の伝承行事が連綿と続いています。毎年お盆の8月15日の夜、大日堂で装束を整えます、白パンツにさらしを巻いた本久の若者らが、縄のついた麦わら製の万灯（シャトルコック状）長さ60cm、幅70cm、重さ5Kから10Kに火をつけて、鉦、太鼓、笛の音に合わせて**【マンド、マンド、ヨーイヨイ】**と頭上で勢いよく振り回します。勇壮な動作で精霊送りと、悪霊鎮送の呪術と考えられ、若者の通過儀礼の要素も兼ねているとの事です。振り手は30人に及び、次々と入れ替わる炎の輪舞は壮観そのものです。

麦わら製の万灯☞

新城へようこそ【古戦場の民話】❶

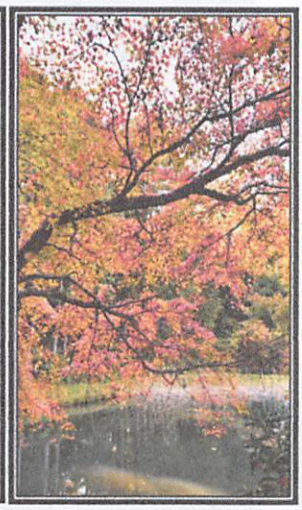
『おとら狐の民話』　大通寺の城藪稲荷とおとら狐

・長篠の籠城戦の戦いの折、長篠城本丸の櫓の上から1匹の狐が戦いの様子を見ていました。この狐は長篠城内の稲荷末社に棲む狐で、文字通り戦いの様子を高みの見物をしていましたが、火縄銃の流れ玉に当たり左目を失明しました。それまでも左足を痛めており、片目、片足の異形の狐でした。その後戦いに勝った城主の奥平貞昌は、徳川家康の命で新城城を（**郷ヶ原に**）築き、稲荷末社を置き去りにして、移ってしまいました。怒った狐は、城の近くに住む万兵衛の娘【**おとら**】にとり憑き生き続けました。【**おとら狐**】は、とり憑いた人間の体を借りて長篠城の戦いを語り、多くの人に悪戯を重ねました。困った村人は、医王寺の住職に頼んで、伏見稲荷を迎え、おとら狐を封じ込んだと云われています。長篠城の近くに住む人は、品物が紛失すると、油揚げを供えて探して頂く習慣がありました。城藪稲荷（稲荷末社）は、現在長篠城址から、目の前の大通寺に移管され多くの信仰を集めています。

桜の長篠城史跡保存館　本丸跡と縄張り図

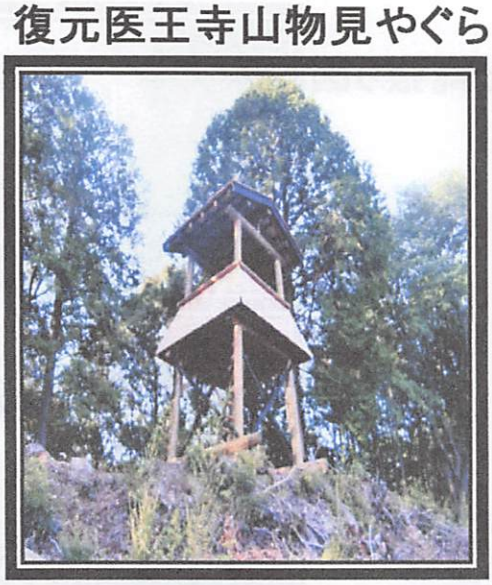
新城へようこそ【古戦場の民話】❷

『医王寺の片葉のアシの民話』 医王寺と紅葉の阿弥陀池



・【長篠・設楽原の戦い】で長篠攻めの本陣の置かれた【医王寺】に伝わるお話です。武田勝頼が、いよいよ決戦の地【設楽原】へと軍を進めようとした前夜の事です。勝頼の夢枕に【葦の精】が白髪の老人の姿となって現れ 『この度の戦は、神人共にくみしない所だから、戦をやめて甲斐の国に帰れとのお告げがあったと勝頼を諫めました。』 勝頼は、怒って目覚めました。5月20日の出陣の朝です。
勝頼は、この弥陀池のアシの精に向かい、『我を助けなければ、片輪にするぞ』と、刀を抜きアシの精の片腕を切り落としました。すると、池はにわかに波立って雷鳴が轟き天地が暗くなり、どこからか大声が響き渡りました。**『我戒めに従わず無謀の戦をするのか、汝もこの戦で片腕と頼む臣を失うであろう』**・・・
そして弥陀池のアシが、全て片葉になっていたとの事です。

復元医王寺山物見やぐら

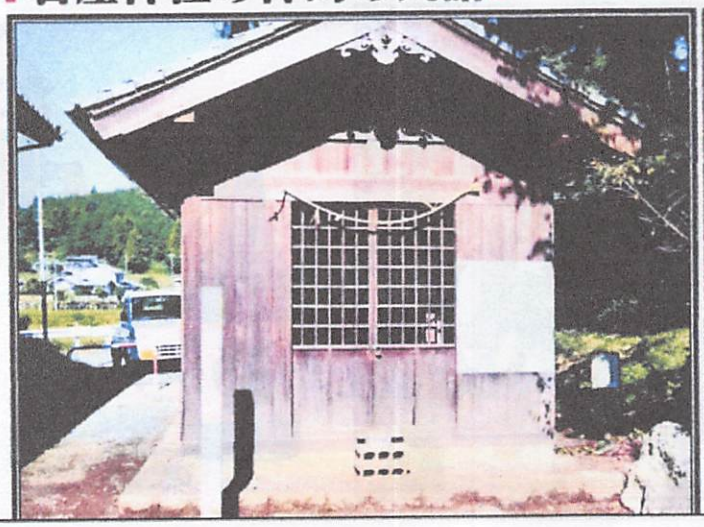


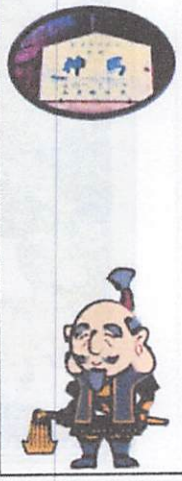
五月二十日
武田本隊、進軍開始

医王寺山門前にて長篠設楽原鉄砲隊

新城へようこそ【古戦場の民話】❸

『石座神社の神馬の民話』　神馬小屋と木造神馬



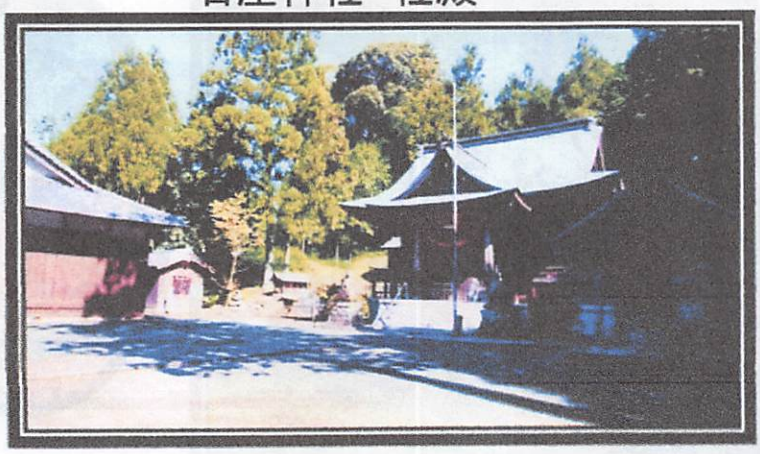


・木造神馬は、明和5年（1768）の7月下旬に、地元の大宮住民の長左衛門が飼っていた馬をモデルにして、般若寺の空道和尚が制作したと伝えられています。全長204cm　像高129cmのほぼ等身大の江戸時代の彫刻で、昭和33年4月1日に指定文化財に成っています。

＊大宮地区の石座神社（いわくら神社）は、長篠・設楽原の戦い時に織田信長と徳川家康が戦勝祈願をしたと伝わる神社です。この神社の境内には、神馬小屋がありこの中の黒い馬は、初め白馬でしたが、毎夜村に出て、田畑を食い荒らすので、格子造りの馬小屋に閉じ込め黒く塗った処、それ以後はもう出なくなり田畑も荒らされることも無くなったと云う。

＊石座神社（いわくら神社）新城市大宮字狐塚　祭神は天御中主命と天雅彦命　創建は明らかでないが、奈良時代の法令集『延喜式』の神名帳に記載されている古い格式のある神社です。

石座神社　社殿



狛　犬

新城へようこそ【古戦場の民話】❹

『賓頭盧尊者の【びんずる】民話』 ☞賓頭盧様

＊賓頭盧尊は、お釈迦様の弟子の一人で通称【**おびんずる様**】と呼ばれお寺の堂の前に置かれ、像を撫でると徐病の功徳があるとされ【撫で仏】の風習があります。お酒が大好きで様々なお話があります。

＊設楽原の中央を流れる連吾川の、飯田線の鉄橋の下に【びんずる渕】があります。渕は両岸が切り立った様に成っていて、昼間でも薄暗くその中をゴーゴーと滝が音を立てて流れ、気味が悪い所です。むかしこの滝の上に、時々賓頭盧ばばあが出て、ビーンビーンと糸を紡いで近くに住む人々を、気味悪がらせていました。竹広の空道和尚は、村人に頼まれ賓頭盧尊者像を造り、滝の上に祀った処、不思議にもそれからは賓頭盧ばばあは現れなく成りました。河川改修により賓頭盧尊者像は、近くの飯田線の鉄橋の右岸の庭に移され、大切に祀られています。

空道和尚は、信玄塚の閻魔座像、石座神社の神馬、勝楽寺の魚鼓の作者です。

信玄塚お地蔵様も